



- ◆ 成に力を入れます。
- ◆ 金山町地域農業推進協議会で取り組む「生産の目安」として、次の水田活用米穀への誘導をはかります。↓「備蓄米720ト」・「加工用米30ト」・「輸出用米10ト」・「飼料用米290ト」。
- ◆ コスト低減栽培や農作業受託組合によるヘリコプター防除で労力削減を進めます。
- ◆ 栽培管理や病害虫防除の徹底をはかるため「稲作速報」・「農協広報紙」の充実をはかります。
- ◆ 栽培履歴記帳・残留農薬／DNA検査ならびに食味分析による安全・安心な良食味米生産

金山らしい農業を振興し 地域の活性化につなげます

令和元年度（2019年度）営農部取組方針 《営農・経済指導計画》

「農業者の所得増大」
「農業生産の拡大」
「地域の活性化」
をめざします

平成30年度より米の直接支払交付金は廃止され、県農業再生協議会を中心とした「生産の目安」設定による米づくりが2年目に入ります。自らの創意工夫に基づいた「創造的自己改革」に今後取り組みんでゆきますが、まずは、農業者の所得増大（コスト削減）と生産拡大（新品目・支援等）の農業振興をはかるため、指導員と生産資材の連携を強化し、管内農業の特徴や地域の実態に応じた取り組みを実施し、生きがいのある「地域の活性化」につなげてゆきます。具体的な計画は次の通りです。

1 地域農業の振興

地域づくりと地域の活性化・担い手対策

◆ 行政や関係機関と一体となり、次代の担い手を地域で育む農業次世代人材投資事業および新規



就農定着サポート事業を最大限に活用し、園芸振興の拡大をはかります。

◆ 農地の出し手農家をはじめとした多様な担い手が地域において役割を発揮できる地域づくり、また、集落営農組織や担い手の規模拡大支援に取り組みます。さらに、農地利用円滑化団体として、担い手のいない農地を行政と連携し農地の有効活用に取り組みます。

◆ 担い手の離農が加速化する中で労働力不足が懸念されていますが、無料職業紹介事業に取り組み労働力確保に努めます。また、農福連携事業を支援し、生産意欲の向上や所得向上にむけた雇用と地域の活性化をはかります。多様化するニーズへの確に対応するため経営アドバイザーと営農指導員のスキルアップ向上に取り組み、経営的的確なアドバイ

2 稲作指導

「売れる米」・「産地づくり」による（農業所得増大）

◆ 「酒米の里」・「もち米生産団地」での顔の見えるブランド産地形



イスや所得増大をはかります。

に取り組みます。

3 園芸指導

生産者手取りの増大と生産拡大

◆ 新品種の作付面積拡大により、一戸当たりの生産量・所得の増大をはかります。

◆ 安価な肥料・農薬で栽培管理技術を確立し、コストの削減をはかります。

◆ 防除暦（ローテーション）を更新し、近年の異常気象に対応できる指導体制にします。

◆ 行政と連携し、高反収作物のさらなる拡大（ニラ・アスパラ・スナップ）を進めます。

4 畜産指導

子牛の高価格販売維持・肥育牛の出荷頭数の増加

◆ 獣医師・共済組合と連携した分娩間隔短縮および受胎率の向上をはかります。

◆ 母牛（高齢牛）の早期更新とトレンドに合った血統牛精液の導入を進めます。



5 特産品指導

周年農業確立の圃場幹旋・生産者拡大

◆ 生涯現役支援プロジェクト・認定就農者支援等を活用した高齢・新規担い手への資材購入費の削減を支援するとともに、高

◆ 県産種雄牛の積極的な使用による低コスト生産振興をめざします。

◆ 肉牛の資質（目標格付/A-5率90%）向上をはかります。

◆ 県内外への消費流通宣伝の取り組みを強化し、ブランド向上をめざします。

6 営農経済指導

年特購入の利用向上・生産コストの削減

◆ 肥料、農薬等の市況に対応した価格設定と集約銘柄により価格引き下げを行います。

◆ 営農指導員と連携し、さらなる低コスト生産体系をめざします。

◆ 年特予約の利用向上を進め、秋の自己取り奨励・年間の利用高還元等による資材購入コスト削減への誘導をめざします。

◆ 使用済み農業用廃プラの回収等に努め、環境問題への取り組みを一層強化します。

「令和元年度・第22回契約栽培米推進大会」 1等米比率95%目標・ 5万2千俵栽培へ一丸

J A金山稲作推進協議会は4月17日、金山町農村環境改善センターで「2019年度・第22回契約栽培米推進大会」を開きました。大会は、産地と関係者が一体となり販売先との契約による信頼産地づくりを進めるのが目的です。

特別栽培米・ブランド米栽培・ 栽培管理記録帳運動等 環境保全型稲作を推進

契 約栽培米の体制は、コンビニエンスストアの「ミニストップ米」（「はえぬき」「あきたこまち」）、酒米（「出羽燦々」「美山錦」）、モチ米（「ヒメノモチ」）が中心。令和元年度産米で、1等

米比率95%、契約栽培米数量5万2千俵の目標を確認しました。また、立地条件を生かした特別栽培米基準の「出羽燦々」（慣行比50%減とする減農薬・減化学肥料栽培）やブランド米栽培基準の「出羽燦々」（GAP認証+シリカタント栽培+低農薬栽培）に取り組み、さらに全品種・

米比率95%、契約栽培米数量5万2千俵の目標を確認しました。また、立地条件を生かした特別栽培米基準の「出羽燦々」（慣行比50%減とする減農薬・減化学肥料栽培）やブランド米栽培基準の「出羽燦々」（GAP認証+シリカタント栽培+低農薬栽培）に取り組み、さらに全品種・

全水田・全生産者を対象に「栽培管理記録表」の記録運動を継続し、環境保全型稲作を推進いたします。

重点課題は3つの推進 ①金山ブランド米推進 ②環境保全型米の推進 ③地域稲作の推進

令

和元年度の重点課題としては①金山ブランド米推進②GAP認証等新たな米づくりの推進と契約栽培米強化③環境保全型米の推進④栽培体系の強化とこだわり米の拡大等⑤地域稲作の推進⑥備蓄用米・加工用米・飼料用米の継続と稲作作業受委託の推進に取り組みます。

全農山形県本部米穀部米穀内陸推進室の八鍬正浩室長が米情勢を報告。基調講演で全農東日本米穀販売事業所の中崇所長が「全農の取組内容と消費地の情勢」と題して、米の消費傾向の変化や外食・中食産業市場規模の推計などを説明。業務用需要向け契約栽培の提案等を話されました。



信頼産地向上へ一体で取り組むとあいさつするJA金山柴田義正組合長



全農東日本米穀販売事業所中崇所長の講演に聞き入る生産者の皆さん

「優良酒米コンテスト」で全農山形会長賞受賞

松澤信矢さん(持越)の「出羽燦々」

山形県酒蔵適性米生産振興対策協議会が主催する第21回酒米の里づくりフォーラムの「優良酒米コンテスト」で、持越の松澤信矢さん（JA金山酒米研究会）の「出羽燦々」がJA全農山形運営委員会会長賞を受賞いたしました。

コンテストでは、県農林水産部農業技術環境課の結城課長が選考結果を報告、県の武田県産米ブランド推進課長らが各受賞者に表彰状を授与しました。

山形県工業技術センターの



優良酒米コンテストで表彰を受ける松澤信矢さん

引き続き、山形県JA酒米研究会連絡協議会の「平成30年度酒蔵・酒米生産者交流会」が開かれ、県産酒造好適米「出羽燦々」「出羽の里」「美山錦」と、大吟醸用に開発された「雪女神」の4品種を使い醸造した37酒蔵の82銘柄を披露。出席者は試飲しながら、良質な酒造好適米生産に向けて意見を交わしました。県産米を使った酒の需要拡大が目的で2月14日、山形市のホテルメトロポリタンで開催されました。

県食味コンクール「優良賞」受賞

今田政男さん(上台)の「つや姫」

平成30年度やまがた攻めの米づくり日本一運動食味コンクールの表彰式が3月5日、山形市のパレスグラウンダーで行われ、上台の今田政男さんが「つや姫の部」で「優良賞」を受賞しました。

この日は、山形「つや姫」の全国トップブランドの評価のさらなる浸透をめざし、また、昨年本格デビューした「雪若丸」の高品質・良食味米の安定生産をはかるため、平成31年産「つや姫」生産者認定証及び「雪若丸」生産組織登録証の交付式が行われました。



「つや姫の部」で「優良賞」を受賞した今田政男さん。(後列右から2人目)

講演では、「米販売店からみたつや姫・雪若丸の評価」と題して、株式会社シブヤの澁谷梨絵代表取締役がお話されました。今田さんの「つや姫」が県内で最もおいしいお米の中に選ばれ、とても名誉なことだと思えます。



組合員と不断の挑戦

第28回JA全国大会開催 節目の30年を振り返る

JA全中は「第28回JA全国大会」を3月7日に東京都港区で開き、2019年度から3年間のJAグループ共通の取り組み方針となる大会決議を採択しました。「創造的自己改革の実践」を主題に、引き続き「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革を継続。改革の実践を支えるため、JAの経営基盤の確立・強化にも重点課題として取り組んでゆきます。節目の年にあたり、JA全国大会の30年を振り返ってみます。

21世紀展望から共生の世紀、そして創造的自己改革

今回の第28回JA全国大会は平成最後の区切りで、大きな節目を迎えました。改元や政府による農協改革集中期間の期限、食料・農業・農村基本計画の見直し議論、参院選、日米貿易協定交渉もあります。

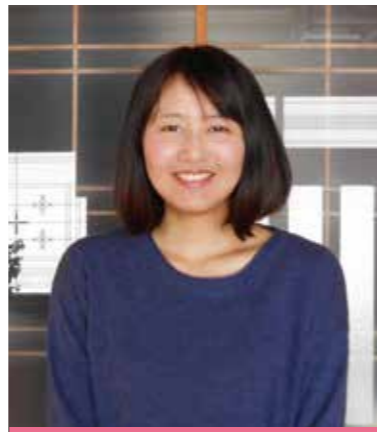
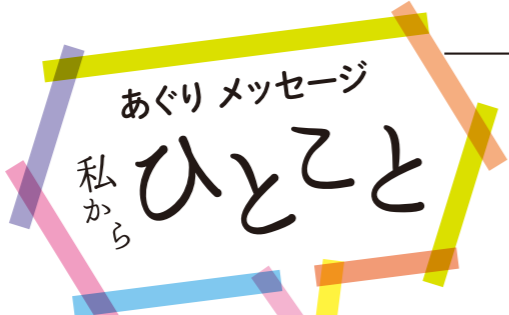
30年を振り返ると、第18回大会（1988年12月）では「21世紀を展望する農協の基本戦略」を決議。同年、牛肉・オレンジ輸入自由化が決まり、国際化に対応した農業確立などの構想を掲げました。18回から21回まで4大会続けて「21世紀」を冠に掲げ、新世紀への組織対応と方向性が提起されました。この間、米の部分市場開放を含むガット（関税貿易一般協定）ウルグアイ・ラウンド農業交渉が妥結。97年の21回大会では、事業と組織を各2段階とする転換を決めました。

98年に次世代・消費者・アジアとの「3つの共生」実現を国民運動として進め、この運動の結果、99年には食料・農業・農村基本法が制定されました。

結集力で難関突破 改めて「共生」と「協同」の 価値見詰め直す

2000年の22回から06年の24回大会までは「農と共生の世紀」を掲げ、助け合い補い合いながら共に生き、精神的、経済的な豊かさを享受できる社会をめざしてきました。

JAグループは15年の前回大会から「創造的自己改革」を明記し、自主・自立の組織を前面に出し、結集力で難関を突破し、農業者、地域にとってなくてはならない農業協同組合像をめざしています。



金山町稲沢
丹葵さん(27歳)

農 家の娘として生まれ、自然と農業があり、小さな頃からよく父の水田の見回りについてゆきました。父から教えてもらった田んぼのことなどを今では子どもたちに伝えています。今年3歳になる娘が、昨年の稲刈り後の田んぼを眺めて「みんないなくなっちゃったね」とつぶやいたときがありました。私が「収

穫した稲穂が大切なお米になるのよ」と話すと驚いた表情を見せていました。母親として言葉で教えるだけでなく、食育の面でも「おいしいと思える食材」を食べさせてあげたい。そのためには安全・安心で新鮮な食材が購入できる「地産地消」を推進し、販路拡大などをぜひ進めてほしいと思います。次代を担う子どもたちが農業や農作物にもっと親しめるよう、そして、大人になったとき「つくること」や「食べること」、また、「生きてゆくこと」の意味を大切にしながら食べ物を存分に楽しめるよう、日本の農業、山形の農業がより発展されることを一人の母親として願っています。

「四角いお米」で地元産PR キューブ型パッケージ入り作製



町オリジナルの金山米ロゴを使用した「つや姫」と「雪若丸」のキューブ型パッケージ入り「四角いお米」

「つや姫」が白で「雪若丸」が赤のパッケージ。粒ぞろいの米を厳選しています。金山米ロゴは、金山の文字と、四つの丸と2本の線で米を表し、ふるさと納税の返礼品などに使用し、町一体で金山米のブランド化に力をいれています。同法人の青柳栄一代表(59)は「米の消費拡大に貢献できたらと考え企画した。観光客にも気軽に味わい親しんでほしい」と話されています。1個350円。町内のマルコの蔵やホテルシェーネスハム金山で販売。ふるさと納税の返礼品としても扱います。



農事組合法人「いずえむ」は、地元産「つや姫」と「雪若丸」の300g入りキューブ型パッケージを作りました。デザインは町オリジナルの金山米ロゴを使用。四角いお米で持ち運びやすく、町の新たな土産品として期待されます。



女性に人気の高いアイテム「ハーバリウム」の制作体験を行った冬季講習会。講師を囲み自作の作品を手にする部員の皆さん

「ハーバリウム」とは、植物標本という意味で、参加者は好みのドライフラワーやプリザードフラワーを瓶の中に詰めて、専用オイルを入れ、オリジナルのハーバリウムを完成させました。参加者からは「花が持つ美しさを感じられてまるで生きてるようです」、「入る瓶の形で見えた目の華やかさが楽しめて気持ちも癒されます」、「部屋のインテリアとして飾ってみます」などと大好評でした。

JA金山女性部主催 「ハーバリウム制作」 人気「ハーバリウム」講習会を 2月13日JA金山会議室で開きました。

JA金山女性部は、インテリアとして人気が高い「ハーバリウム」講習会を2月13日JA金山会議室で開きました。新庄市の軽部美貴子さんを講師に迎え、和気あいあいとした講習会になりました。「ハーバリウム」とは、植物標本という意味で、参加者は好みのドライフラワーやプリザードフラワーを瓶の中に詰めて、専用オイルを入れ、オリジナルのハーバリウムを完成させました。参加者からは「花が持つ美しさを感じられてまるで生きてるようです」、「入る瓶の形で見えた目の華やかさが楽しめて気持ちも癒されます」、「部屋のインテリアとして飾ってみます」などと大好評でした。



第2回冬季グラウンドゴルフ大会の開会式

第2回冬季グラウンドゴルフ大会
2回大会は金山町多目的室内運動場で開かれ、朴山の伊藤貢さん(81)が優勝しました。健康意識の高揚と会員相互の交流促進を目的に、楽しむ生涯スポーツ「グラウンドゴルフ」の大会を厳冬期に企画。昨年より5人多い62人が参加されました。男女個人オープン戦で8組に分かれ2

GG大会へ62人・日帰り旅行研修へ47人参加
JA金山年金友の会の「第2回冬季グラウンドゴルフ大会」が2月8日、また、日帰り旅行研修は3月1日に行われ、会員の皆さんが交流と親睦を深めています。ラウンドで競技。この日は室内の会場でも吐く息が白くなる真冬日でしたがホーラインワンなど好プレーが続出し盛り上がりました。競技後は味の浸み熱々の玉コンニャクを食べて体を温めました。同会の西田健治会長(81)は「冬でも土の上で和気あいあいと楽しめました。今後も交流を広げ活性化をはかってゆきます」と話しています。

日帰り旅行研修今年岩手県内金ヶ崎要害ひな祭りと遠野で昔話
日帰り研修旅行は3月1日、47人が参加しました。毎年ひな祭り時期に合わせて県内外を巡る人気のツアー。9回目の今年は岩手県金ヶ崎町の国選定



岩手県金ヶ崎町の「金ヶ崎要害歴史館」での記念撮影

「金ヶ崎町城内諏訪小路・重要伝統的建造物群保存地区」や民話のふるさと遠野市などを訪れました。金ヶ崎要害歴史館で「金ヶ崎要害」の歴史や文化をじっくり研修した後、実際に諏訪小路地区を歩いて視察。ていねいなガイドの説明を受け、待住宅の特徴や半土半農の暮らし、屋敷内に飾られたひな人形など見学。遠野市の遠野城下町資料館遠野座では、語り部による素材で温かい昔話に聞き入りました。「すばらしい歴史や文化に触れることは気持ちの新鮮な代わりになる感じがします」と、西田健治会長(81)は研修の意義を話されています。